

「スーパーグローバル大学創成支援事業」及び「大学の世界展開力強化事業」 採択校に対するアンケート結果（第2回）

対 象：50大学

（SGU及び展開力採択19、SGUのみ採択18、展開力のみ採択13）＊回収率100%

調査期間：令和2年11月2日（月）～11月13日（金）

※第1回は6月実施

●「大学の国際化」という観点で目下の課題は何か。（各大学最大5つまで選択可）

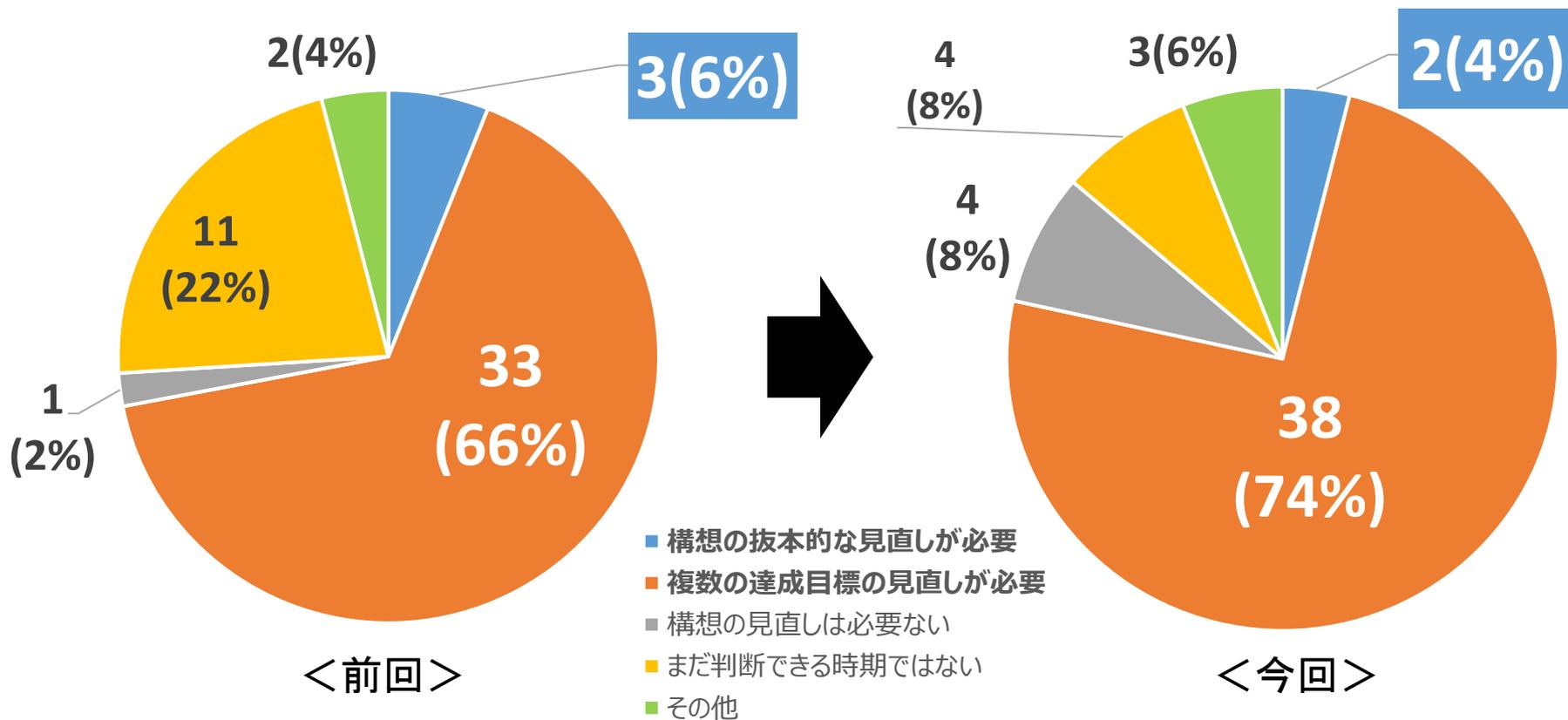
	今回	前回
学生や教職員の交流の停止による事業の停滞	46	45
ポストコロナを見据えた新たな事業戦略の策定	43	40
学生の安全確保や危機管理のあり方	33	37
学生交流の停止によるキャンパスの国際環境の維持・あり方	32	26
オンラインによる国際教育交流を行うための機材・人員の確保やノウハウの共有	28	29
留学生のリクルーティング	25	26
国際交流事業を停滞させないための予算・人員の確保	13	14
海外の相手側大学の教職員とのコミュニケーション	11	11
プログラム参加(予定)学生(受入)に対する経済的支援	5	7
海外の相手側大学の運営や経済状況	3	1
プログラム参加(予定)学生(派遣)に対する経済的支援	3	5
受入留学生数の減少による大学予算の減収	1	2

★多くの大学において、**事業が停滞し、事業全体の方針や戦略に影響**が生じている。

★キャンパスの国際環境の維持・あり方が、前回より5大学増加。



●事業構想の見直しについて



【具体的な構想内容の例】

- ・既存の枠組みの中で、リモートによる3大学双方向授業の準備
- ・数値目標の達成だけではない、アウトカム実現に向けた新たな国際交流の在り方について検討
- ・当初実留学を促進するために整備した科目閲覧システムの中に、オンライン科目も追加

● コロナ禍を踏まえた、外国人留学生の国際的な動向の変化における大学への影響

外国人留学生の志願者・受験生の減少	32
外国人留学生からのオンラインを含む貴学の留学プログラムへのニーズの増加	21
その他（ニーズは減っていないが、実際に受入ができない。現時点で判断できない等）	16
外国大学からのオンラインを含む貴学の留学プログラムへのニーズの増加	14
外国人留学生からのオンラインを含む貴学の留学プログラムへのニーズの減少	10
外国大学からのオンラインを含む貴学の留学プログラムへのニーズの減少	8
外国人留学生の志願者・受験生の増加	5
特になし、もしくは把握していない	4

★ コロナ禍により、外国人留学生の志願者・受験生が減少しているものの、**オンラインを含めた留学プログラムへのニーズが増加**するという結果となった。

● 外国人留学生向けの「広報・リクルート活動」の現状、今後実施予定の取組

	現状	実施予定
オンライン留学フェアへの参加	43	46
オンライン説明会やオンライン留学フェアの企画・実施	36	39
海外拠点による対面での説明会・相談会の実施	8	16
積極的な活動は停止している	5	
その他	7	7

★多くの大学が「**オンライン留学フェアへの参加**」、「**オンライン説明会やオンライン留学フェアの企画・実施**」と回答。

【その他の具体例】

- ・長年の交流を通じて関係を構築・強化してきた各国政府や協定校を経由したリクルーティング
- ・オンラインによる個別相談
- ・海外拠点を活用した現地受験生への情報発信や個別相談

● 外国人留学生向けの「入試活動」の現状、今後実施予定の取組

	現状	実施予定
外部検定試験の活用	44	39
オンライン面接	43	39
調査書等（学習・活動履歴）の活用	40	35
検定料の電子決済	35	27
筆記試験（紙）	33	26
筆記試験（オンライン）	16	13
入試日程の変更	15	14
検定料の減免・免除	10	12
その他(オンライン録画面接、オンライン出願など)	9	10

★コロナ禍の状況を踏まえて選抜方法等の変更を検討する、と回答した大学もあり、各大学が今後の入試活動について、慎重に検討している。

● 外国人留学生向けの「感染対策」の現状の取組、今後の課題

【現状の取組】

待機場所の確保	36
空港から待機場所までの移動手段の確保 (バス等借り上げ)	32
その他(旅行代理店と連携したワンストップ相談体制、 宿舎の1部屋当たりの定員変更、多言語情報発信等)	19
キャンパスや教室の改修	8
受入学生数の抑制	7
支援スタッフの拡充	5
留学生向け寮・宿舎の改修	1

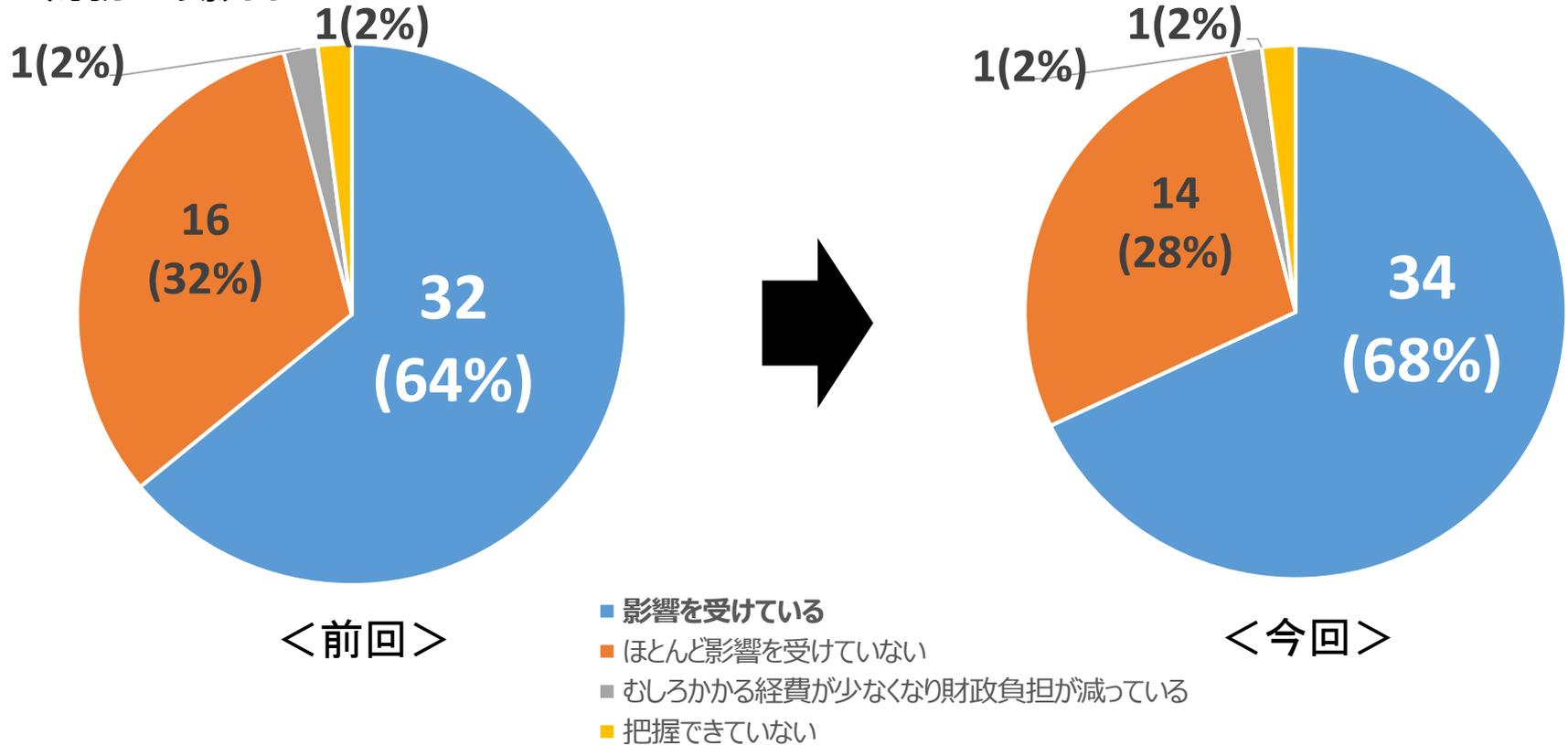
【課題】

学生交流イベントの在り方	40
外国人留学生向け宿舎・寮の在り方	39
対面式授業を行うための使用教室の確保	19
外国人留学生数の在り方	18
キャンパスや教室の消毒作業にかかるコスト	18
旅行代理店の確保	16
その他(多言語によるコロナ情報サイトの充実、 学生の心のケア・居場所作り等)	7

★現状の取組としては、**待機場所や、待機場所までの移動手段の確保**をあげている大学が多い。

★今後の課題としては、**学生交流イベントや外国人留学生向け宿舎・寮の在り方**をあげている大学が多い。

●外国人留学生の減少に伴う授業料（サマープログラム等を含む）、入寮の中止等による財務への影響



★年8,000万円程度の収入減を見込む大学や、プログラムの縮小を検討している大学もある。

【影響を受けている具体例】

- ・留学生宿舎の寄宿舍収入の減少（外国人留学生の渡日不可、日本人の入居者も減、寮の感染対策等）〈26大学〉
- ・収益型ショートプログラムの中止〈8大学〉

● コロナ終息後を見据えた、高等教育機関のあるべき国際化の方向性
 (いわゆる国際化のreshapingの是非・必要性等)

	今回	前回
実際の留学とオンラインによる交流とを合わせたBlended/Hybridプログラムへの見直し	45	43
日本人学生の派遣については、今後は量より教育や学びの質をより重視する。	28	26
外国人学生の受入については、今後は量より教育や学びの質をより重視する。	25	25
新規開拓地域を含む交流相手国・大学については、当該国・大学におけるコロナ対応を重視する。	16	13
交流する相手国・大学を増やすのではなく、既存の交流先でより良い人材（学生や教員）の確保を目指す。	16	15
コロナの世界的状況を見ないと現時点では何とも言えない。	13	17
外国人学生の受入については、量的拡大を目指す。	10	5
日本人学生の派遣については、量的拡大を目指す。	9	7
オンラインによる交流を主軸とした方針への転換。	6	6

●実留学とオンライン交流とを合わせたHybridプログラムを実施する上での、
実留学における学生派遣の現実的な日数

30日未満	16
わからない	16
61日～半年未満	14
半年以上1年未満	10
31日～60日未満	8
1年以上	1

★「30日未満」が最も多いが、「61日～半年未満」も同程度あるため、
大学によりバラつきが生じている。

★3割近い大学が「わからない」と回答しており、**実留学の日数については模索中**
であることが判明。

●オンラインを活用した国際教育・交流プログラムの対象地域

国・地域	派遣		受入		双方向	
	実施	検討	実施	検討	実施	検討
中国	10 (7)	4 (10)	13 (3)	3 (7)	23 (3)	16 (7)
韓国	7 (2)	2 (13)	5 (8)	2 (10)	21 (7)	14 (13)
ASEAN	12 (2)	16 (13)	12 (8)	5 (10)	42 (7)	30 (13)
その他アジア	2 (0)	6 (4)	11 (2)	6 (5)	7 (1)	11 (2)
大洋州	8 (2)	14 (2)	0 (1)	3 (3)	13 (1)	13 (2)
欧州	18(6)	15 (11)	11 (3)	5 (4)	20 (2)	11 (10)
北米	16 (4)	29 (9)	6 (2)	5 (8)	32 (15)	16 (12)
ロシア	2 (0)	2 (7)	4 (0)	3 (10)	26 (1)	19 (10)
中南米	1 (0)	1 (1)	6 (1)	0 (0)	2 (0)	0 (0)
アフリカ	0 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
中東	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)

※括弧内の数字は前回の結果

- ★ASEAN、北米が多く、次いで中国、韓国、欧州を対象としている。
- ★新たにアフリカや中東を対象地域とする大学が出始めている。
- ★米国との双方向交流は、H30採択COILプログラムが多数を占めている。

● オンラインやオンデマンドを活用した国際教育の課題

オンライン国際教育・交流の質保証の在り方	45
オンライン向けの授業設計や教材開発のノウハウ	39
人的労力や財政上のコストに見合った教育効果の確保	33
オンラインやオンデマンドのための機器や仕組みに精通した教職員の確保	30
プログラムの目的を満たした施設や機器の確保	15
大学設置基準や著作権法等の関係法令による制約	13
その他	5

- ・時差の問題
- ・オンラインで海外大学の指導教員から指導を受ける制度に変更したが応募者がいなかった。
- ・プログラム開発にあたり、海外大学と協議、学内承認を経るための時間と人材の確保
- ・実験・実習の在り方

● 今後、より戦略的に取り組みたい国際教育・交流プログラム

	人文・社会系	自然科学系	左記以外	合計
実渡航とオンラインを併用したハイブリッドな国際交流	38	37	14	89
ダブル・ディグリープログラム	28	29	11	68
学生の学籍の異動を伴わない、単位認定を伴う大学間の科目やプログラムの受講	29	25	11	65
英語で学位取得が可能なコース	26	23	7	56
オンライン（オンデマンドとの併用を含む）のみの国際交流	22	17	13	52
ジョイント・ディグリープログラム	15	16	6	37
実渡航のみの国際交流	10	13	7	30
その他（※自然科学系ではコチュテル（博士課程協働指導）2件含む）	2	4	1	7

より戦略的に取り組みたい国際教育・交流プログラムについて、

- ① オンライン教育を念頭においたと推察される、相手先大学に学籍異動をせず単位認定をする大学間交流に高いニーズ（65）が見られた。
- ② ハイブリッド教育（89）が最も多い。しかし、オンラインのみの国際交流も相当数（52）ある。
- ③ DDのニーズ（68）は高いが、JDのニーズも相当数（37）ある。
- ④ 学術分野の違いとして、「オンラインのみの国際交流」で、自然科学系が消極的傾向がみられた。

●オンラインプラットフォームや国際的な大学間連携コンソーシアムを活用した オンライン/オンデマンド授業の実施状況

【背景】

コロナ禍の影響により、教育のオンライン化が一挙に進展する中、Coursera、edX、JMOOCなどの既存のオンラインプラットフォーム（※）を活用する動きや、国際的な大学間連携コンソーシアムや国際連携ネットワーク（UMAP、APRU等）がパイロット事業としてオンライン（オンデマンド）科目の集積・提供を行うなど、世界的にオンラインを活用した国際教育・交流の取組が加速しており、SGU及び展開力事業採択大学の現状の把握のため。

※世界各国の大学や企業等が、当該大学等の授業や学習講座をオンライン上で集合的に提供する教育サービスのこと

	海外大学 からの提供	海外大学 への提供
検討中	31	30
実施(提供)している	12	14
今後実施(提供)する予定	6	4
実施(提供)するつもりはない	4	7

★約6割の大学が、**検討中**と回答。

★「実施／提供している」と回答した大学は、**UMAPやAPRU、MOOCs**などの既存のネットワーク・プラットフォームをあげたところが多い。

● 国内及び海外の複数大学によるジョイント・ディグリー構想について

【質問背景】

現行制度では、国内の複数大学と海外の大学によるジョイント・ディグリープログラムを構築することはできないが、コロナ禍により授業のオンライン化が進展し、連携大学の強みを生かしたカリキュラム構成や、多彩な教員陣の配置など、より国際通用性を備えるとともに教育の質が担保されたプログラムとして、複数大学間連携構想への関心が醸成されつつあり、SGU及び展開力採択大学がどれほど関心があるかを把握するため。

関心がある	35
わからない	10
かつて検討していた	3
関心がない	2

★約7割の大学が、**関心がある**と回答。

★対象大学のうち、すでにジョイントディグリープログラムを設置している**7大学中6大学**が、**関心がある**と回答

● 学歴証明のデジタル化

【質問背景】

諸外国では、紙で発行される証明書は過去のものとなりつつあり、卒業・成績証明などの履歴にかかわる書類は電子的に送受信されることが主流となっている一方、日本は特段の遅れをとっている。諸外国の事例を踏まえると、証明書類の電子化が進むことで、資格認証における真正性の確認が不要となるなど優秀な外国人材や留学生の獲得に寄与するものと期待されることから、SGU及び展開力採択大学における内容の把握状況、検討状況を把握するため。

○ 内容の把握状況

内容まで把握している	36
名称は聞いたことがある	12

○ 検討状況

実施に向け、準備を進めている	6
実施するかどうか検討中	38
実施するつもりはない。	3

- ・デジタル学歴証明の信頼度・信用度が不明
- ・現行の学務システムでは対応不可
- ・まだ検討を始めていない。

★約7割の大学が内容まで把握しており、約9割の大学が、準備中か検討中という回答。